

簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号 ~ 〕(配点 40)

A 個人企業である三重商店(決算は年1回、決算日は12月31日)に関する次の資料1 ~ 資料3 にもとづいて、6ページから7ページの問い(問1 ~ 7)に答えよ。ただし、商品売買取引は3分法により記帳しており、引出金勘定は用いていない。なお、金額の単位はすべて千円である。また、()は各自で考えること。

資料1 ×5年1月1日における各勘定の前期繰越高(すべて)

現金	¥ 800	当座預金	¥ 700	売掛金	¥ 1,200
繰越商品	¥ 500	前払家賃	¥ 300	買掛金	¥ 1,300
資本金	¥ <input type="text" value="ア"/> <input type="text" value="イ"/>				

資料2 ×5年1月中の取引

4日：はがき¥20とバス回数券¥60を購入し、代金は現金で支払った。

8日：滋賀商店に商品5個を¥900で売り上げ、代金は掛けとした。なお、前期から繰り越した商品は、全部で5個あった。

11日：事務用のパソコン(1台あたり¥0)を3台購入し、代金は翌月末に支払うことにした。なお、3台分の据え付け費用¥30は、小切手を振り出して支払った。

19日：奈良商店に対する買掛金のうち¥470を、小切手を振り出して支払った。

24日：奈良商店から商品8個を¥960で仕入れ、代金は売掛金のある滋賀商店あての為替手形を振り出し、滋賀商店の引き受けを得て、奈良商店に渡した。

31日：納税通知書にしたがい、店主の住民税の第4期分¥120を、店の現金で納付した。

資料3

×5年1月中の仕訳帳(すべて)

仕 訳 帳

×5年		摘 要	元 丁	借 方	貸 方
1	1	前期繰越高	—	3,500	3,500
	”	(支払家賃)		300	
		(前払家賃)			300
4		諸 口 (現金)	省		80
		(力)		20	
		()		60	
8		(売掛金)		900	
		(売上)			900
11		(備品) 諸 口	略	990	
		()			()
		(当座預金)			30
19		(買掛金)		470	
		(当座預金)			470
24		(仕入)		960	
		(キ)			960
31		(ク)	—	120	
		(現金)			

(注) 小書きは省略してある。

問 1 資料 1 ・ 資料 2 の ア ～ エ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 資料 3 の点線 で囲んだ部分のような仕訳を オ 仕訳という。 オ に当てはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

オ の解答群

① 訂 正	① 再 振 替
② 合 計	③ 決 算

問 3 資料 3 の カ ～ ク に当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

カ ～ ク の解答群

① 売 掛 金	① 消 耗 品 費	② 資 本 金
③ 受 取 手 形	④ 未 払 税 金	⑤ 支 払 手 形
⑥ 交 通 費	⑦ 租 税 公 課	⑧ 通 信 費

問 4 × 5 年 1 月末における現金勘定の残高は、¥ ケ コ 0 である。 ケ ・ コ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 5 資料 2 について、× 5 年 1 月 8 日の取引を分記法で記帳していた場合の仕訳を示すと次のようになる。 サ ～ ス に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

1 月 8 日：(借) 売 掛 金 900 (貸) () サシス
商品売買益 ()

問 6 資料 2 の一連の取引において、×5年1月19日に奈良商店に支払った買掛金の金額が¥470ではなく、仮に¥740であった場合の仕訳を示すとセ のようになる。ただし、三重商店は取引銀行との間に¥1,000を限度額とする当座借越契約を結んでいる。セ に当てはまる仕訳を、次の解答群のうちから一つ選べ。

セ の解答群

①	(借) 買掛金	670		(貸) 当座預金	740
	当座借越	70			
②	(借) 買掛金	740		(貸) 当座預金	670
				当座借越	70
③	(借) 買掛金	740		(貸) 当座借越	740
④	(借) 買掛金	740		(貸) 当座預金	700
				当座借越	40

問 7 仕訳と転記に関する記述として誤っているものを、次の解答群のうちから一つ選べ。ソ

- ソ の解答群
- ① 仕訳とは、どの勘定の借方または貸方に、いくらを記入するかを決める手続きである。
 - ② 仕訳の際には、借方に記入する合計金額と貸方に記入する合計金額は等しくなる。
 - ③ 仕訳にもとづき、勘定口座に記入する手続きが転記である。
 - ④ 仕訳を行った場合には、取引内容がわかるため、転記を省略することができる。

B 次の文章は、商品販売業を営む和歌山商店の営業部長W氏と税理士E氏との会話である。これを読み、10ページから11ページの問い(問1～8)に答えよ。ただし、和歌山商店は商品売買取引を3分法により記帳しており、委託販売と未着商品売買については、販売のつど売上原価を仕入勘定に振り替えることとする。なお、金額の単位はすべて千円である。また、()は各自で考えること。

W：今年度から、当店は商品の販売方法を多様化しています。(i) 損益を適切に記録するためには、それぞれの販売方法のもとで、いつどのように収益と費用を記録・計算すればよいのか教えてください。

E：わかりました。

W：まず、当店はハンカチの販売を岐阜商店に委託する契約を結んだので、それについてお聞きします。かねて¥600で仕入れていたハンカチを岐阜商店に発送した際に、何か記録する必要はありますか？

E：はい。委託した商品を手もとにある商品と区別するために、発送したハンカチの原価を チ 勘定から()勘定に振り替えます。ハンカチを発送するとき運賃を支払った場合は、 ツ 勘定の借方に記入してください。

W：手もとにある商品と区別して管理することが重要なのですね。それでは、その委託したハンカチの売り上げは、いつの時点で記録しますか？

E：委託先の岐阜商店がハンカチを販売した時点、または次の 資料 の売上計算書を受け取るなどして販売が確認された時点で、売り上げを記録します。その売り上げを手取額で計上する場合、¥ ㊦㊧0 となります。そのほかに、売上原価を明らかにするために〔 I 〕の仕訳を行う必要があります。

資料 岐阜商店から和歌山商店に届いた売上計算書

売 上 計 算 書			
売 上 高		¥	960
諸 保 管 料	¥	20	
雑 費		40	
手 数 料		100	160
差引手取金		¥	<u>800</u>

W：ありがとうございます。よくわかりました。次に、当店はネックレスを新規の取引先である徳島商店に販売する際に、試用期間を設けることにしました。たとえば、徳島商店に原価@¥ 220、売価@¥ 300 のネックレスを10本送って試用してもらう場合、ネックレスを徳島商店に送った時点では、何も記録しなくてよいのでしょうか？

E：いいえ、ネックレスを発送したときに、(ii) 試用販売契約と試用仮売上 という二つの勘定を用いて、 の仕訳のように備忘記録してください。

W：なるほど。それでは、ネックレスの売り上げはいつの時点で記録するのでしょうか？

E：たとえば、試用期間が終わり、徳島商店からこのうち半分は買い取るとの意思表示があり、その後、残り半分は返送されてきたとします。この場合は、 時点で売り上げを記録することになります。なお、 の備忘記録を取り消すことを忘れないでください。

W：最後に、当店は沖縄商店からスカーフを仕入れています。船で輸送するので到着までに時間がかかります。商品を実際に受け取るまでは、何も記録する必要はありませんね？

E：いいえ、 を受け取った時点で、手もとにある商品と区別するために、未着商品勘定を用いて記録します。

W：わかりました。ちなみに、スカーフは人気商品ですので、当店に到着する前に販売したいと考えています。たとえば、スカーフ¥ 100 の を¥ 120 で売り渡し、代金は掛けとした場合、次の仕訳では不十分でしょうか？

(借)	売掛金	120	(貸)	売上	120
-----	-----	-----	-----	----	-----

E：不十分です。この時点で〔 II 〕の仕訳を追加します。

W：この点は、ハンカチの場合と共通していますね。

E：沖縄商店は早期に商品代金を回収するために、荷為替手形の引き受けを求めてくることがあります。仮に、沖縄商店が¥ 100 のスカーフを発送する際に、 を担保として¥ 80 の荷為替を取り組んだとします。その荷為替を引き受けて を受け取った場合、次の仕訳を行います。

(借)	未着商品	100	(貸)	<input type="text" value="ハ"/>	80
			()		20

W：ありがとうございます。よくわかりました。

問 1 会話文における下線部(i)「損益」に関連する記述として正しいものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 **タ**

- タ** の解答群
- ① 資本の元入れは、個人企業の当期純損益を増減させる。
 - ② 収益総額に当期純利益を加えると費用総額に一致し、費用総額に当期純損失を加えると収益総額に一致する。
 - ③ 貸借対照表と損益計算書の間で当期純損益が一致しないことがある。
 - ④ 当期純損益は、個人企業の資本金を増減させる。

問 2 会話文における **チ**・**ツ**，**ハ** に当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

- チ**・**ツ**，**ハ** の解答群
- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| ① 発 送 費 | ② 受 取 手 形 | ③ 支 払 手 形 |
| ④ 商 品 | ⑤ 仕 入 | ⑥ 通 信 費 |
| ⑦ 買 掛 金 | ⑧ 積 送 品 | |

問 3 会話文における **テ**・**ト** に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 4 会話文における〔 I 〕と〔 II 〕の仕訳に共通する取引要素の結合関係を、次の解答群のうちから一つ選べ。 **ナ**

- ナ** の解答群
- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① 資産の増加 — 資産の減少 | ② 負債の減少 — 資産の減少 |
| ③ 費用の発生 — 資産の減少 | ④ 費用の発生 — 負債の増加 |

問 5 会話文における下線部(ii)「試用販売契約と試用仮売上」のように、備忘記録のために用いられる勘定は **ニ** 勘定と呼ばれる。**ニ** に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

- ニ** の解答群
- ① 対 照 ② 集 合 ③ 人 名 ④ 統 制

問 6 会話文における **ヌ** に当てはまる仕訳を、次の解答群のうちから一つ選べ。

- ヌ** の解答群
- ① (借) 試用販売契約 2,200 (貸) 試用仮売上 2,200
 ② (借) 試用販売契約 3,000 (貸) 試用仮売上 3,000
 ③ (借) 試用仮売上 2,200 (貸) 試用販売契約 2,200
 ④ (借) 試用仮売上 3,000 (貸) 試用販売契約 3,000

問 7 会話文における **ネ** に入る最も適当な記述を、次の解答群のうちから一つ選べ。

- ネ** の解答群
- ① 徳島商店に発送した商品が到着したむねの連絡を受けた
 ② 徳島商店から商品の半分を買い取るむねの連絡を受けた
 ③ 徳島商店から返送された商品を受け取った
 ④ 徳島商店が商品代金を入金した

問 8 会話文における **ノ** に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

- ノ** の解答群
- ① 送金小切手 ② 貨物代表証券
 ③ 約束手形 ④ 商 品 券

第2問 個人企業である埼玉商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、単一仕訳帳制度を採用しており、商品売買取引は3分法により記帳している。ただし、補助簿として仕入帳、売上帳、商品有高帳、受取手形記入帳、支払手形記入帳を用いている。なお、埼玉商店はX商品のみの売買を行っており、払出単価の決定は先入先出法による。

次の資料1～資料5にもとづいて、15ページから16ページの問い(問1～5)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。〔解答記号 ア～ヌ〕(配点 30)

資料1 ×5年8月中のすべての取引

- 2日：神奈川商店から商品¥()を仕入れ、代金はかねて受け取っていた茨城商店振り出しの約束手形を裏書譲渡して支払った。なお、保証債務の時価は、手形額面金額の1%とする。
- 3日：群馬商店へ商品¥800を売り渡し、代金のうち¥210は同店振り出しの小切手で受け取り、残額は掛けとした。
- 5日：3日に売り渡した商品のうち、商品2個に汚損があったため、@¥5の値引きを行い、値引額は売掛金から差し引くことにした。
- 10日：千葉商店から商品¥600を仕入れ、代金は先に支払ってある内金¥200を差し引き、残額は掛けとした。
- 15日：10日に仕入れた商品のうち、()個が破損していたので返品を行い、返品額は買掛金から差し引くことにした。
- 24日：栃木商店へ商品¥1,600を売り渡し、代金は同店振り出し、長野商店あて(引き受け済み)の為替手形で受け取った。
- 25日：千葉商店から商品¥()を仕入れ、代金は千葉商店あての約束手形を振り出して支払った。なお、引取運賃¥60は現金で支払った。
- 29日：2日に裏書譲渡した約束手形が支払期日に決済された。

資料2 ×5年8月末における総勘定元帳(一部)

現 金				ウ			
8/3	960	770	8/24	2,300	1,800	8/2	()
	アイ0	60		()	()		
エ				オ			
	680	430				8/29	()
		8/10	200				

(注) 日付欄の記載のない金額は、×5年7月末までの記入の合計額である。また、摘要欄への記入は省略してある。

資料3 ×5年8月中の仕入帳と売上帳

仕 入 帳

×5年	摘 要	内 訳	金 額
8	2 神奈川商店 約手裏書き X商品 ()個 @¥25		カキ0
	10 千葉商店 内金・掛け X商品 30個 @¥()		()
	15 千葉商店 掛け返品 X商品 ㊦個 @¥()		20
	25 千葉商店 約 手 X商品 ()個 @¥30	()	
	引取運賃現金支払い	()	()
31	総仕入高		()
"	仕入返品高		()
	純仕入高		1,440

売 上 帳

×5年	摘 要	内 訳	金 額
8	3 群馬商店 小切手・掛け X商品 20個 @¥40		800
	5 群馬商店 掛け値引き X商品 2個 @¥5		10
	24 栃木商店 為 手 X商品 ()個 @¥40		()
31	総売上高		ケ,コサ0
"	売上値引高		()
	純売上高		()

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料4 ×5年8月中の商品有高帳

商品有高帳

(先入先出法)

品名 X商品

単位：個

×5年	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
8	1 前月繰越	15	18	270				15	18	270
	2 神奈川商店	20	()	()				{ 15 20	{ 18 ()	{ 270 ()
	3 群馬商店				{ () シ	18	()	()	()	375
	10 千葉商店	()	ㄨㄨ	600				{ () ()	{ () ()	{ 375 600
	15 千葉商店返品				()	20	()	{ 15 ()	25 20	375 ()
	24 栃木商店				{ 15 25	25 20	375 500	4	20	80
	25 千葉商店	10	()	()				{ 4 10	{ 20 ()	{ 80 ()
	31 次月繰越				{ 4 10	20 ㄨㄨ	80 ()			
		()		1,730	()		1,730			

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料5 ×5年8月中の取引に関連する受取手形記入帳と支払手形記入帳

受取手形記入帳

×5年	摘要	金額	手形種類	手形番号	支払人	振出人 または 裏書人	振出日	満期日	支払場所	てん末	
										日付	摘要
7	25 売掛金回収	500	約手	(省略)	チ	()	7 25	8 29	(省略)	8 2	裏書譲渡
8	24 売り上げ	1,600	為手	(省略)	ツ	()	8 24	9 30	(省略)		

支払手形記入帳

×5年	摘要	金額	手形種類	手形番号	受取人	振出人	振出日	満期日	支払場所	てん末	
										日付	摘要
8	25 仕入れ	ㄨㄨ0	約手	(省略)	千葉商店	()	8 25	9 30	(省略)		

問 1 資料 2 の **ウ** ~ **オ** に当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ウ ~ **オ** の解答群

① 保証債務	④ 保証債務取崩益	⑦ 保証債務費用
② 前払金	⑤ 仮払金	⑧ 受取手形
③ 売掛金	⑥ 支払手形	⑨ 買掛金

問 2 資料 2 の **ア**・**イ**，資料 3 の **カ** ~ **サ**，資料 4 の **シ** ~ **タ**，資料 5 の **テ**・**ト** に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 資料 5 の **チ**・**ツ** に当てはまる商店名を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

チ・**ツ** の解答群

① 茨城商店	④ 群馬商店	⑦ 神奈川商店
② 栃木商店	⑤ 千葉商店	⑧ 長野商店

問 4 仮に、埼玉商店が X 商品の払出単価を移動平均法で決定していた場合、商品有高帳の一部を示すと次のようになる。**ナ**・**ニ** に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

商品有高帳

(移動平均法) 品名 X 商品 単位：個

×5年	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額
8	1 前月繰越	15	18	270				15	18	270
	2 神奈川商店	20	()	()				35	()	()
	3 群馬商店				()	ナ	()	()	()	330

問 5 仮に、一会計期間において販売価格が固定されており、仕入単価が仕入れの
つど上昇している場合、先入先出法のほうが移動平均法よりも、売上原価が
〔 I 〕なり、売上総利益が〔 II 〕なる。〔 I 〕および〔 II 〕に当ては
まる語句の組合せとして正しいものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

又

又 の解答群

- | | | | | | |
|---|-------|-----|----|--------|-----|
| ① | 〔 I 〕 | 大きく | —— | 〔 II 〕 | 大きく |
| ② | 〔 I 〕 | 大きく | —— | 〔 II 〕 | 小さく |
| ③ | 〔 I 〕 | 小さく | —— | 〔 II 〕 | 大きく |
| ④ | 〔 I 〕 | 小さく | —— | 〔 II 〕 | 小さく |

第3問 個人企業である岩手商店(決算は年1回、決算日は12月31日)に関する後の資料1～資料3にもとづいて、次の問い(問1～4)に答えよ。ただし、金額の単位は、すべて千円である。なお、()は各自で考えること。

[解答記号 ア～ホ](配点 30)

問1 資料3の ア・イ に当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ア・イ の解答群

- | | | |
|-----------|--------|---------|
| ① 消耗品 | ④ 租税公課 | ② 支払手数料 |
| ③ 有価証券評価益 | ⑤ 前受利息 | ⑥ 未払利息 |

問2 資料3の ウ～ハ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問3 当期(×5年)の売上総利益の金額は、¥1,ヒフヘである。
ヒ～ヘ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問4 ×6年1月1日に備品すべてを¥200で売却し、代金は現金で受け取った。この取引から発生する損益に関する記述として正しいものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 ホ

ホ の解答群

- ① 固定資産売却益 ¥50 が発生する。
- ② 固定資産売却損 ¥50 が発生する。
- ③ 固定資産売却益 ¥75 が発生する。
- ④ 固定資産売却損 ¥75 が発生する。

資料1 修正事項

決算整理に先立ち、次の(1)~(5)の事項が判明したので、適切に処理する。
(資料3の残高試算表欄には反映されていないため、整理記入欄に記入する。なお、以下の取引について消費税は考慮しない。)

- (1) 収入印紙¥18を購入した際に、借方を通信費と記帳していた。
- (2) 現金の実際有高は、¥218であった。帳簿残高との不一致の原因は、売上¥10の記帳もれと受取手数料¥()の記帳もれであることが判明した。
- (3) 兵庫商店に対する売掛金の回収として、当店受け取り、兵庫商店あての為替手形¥20を振り出し、同店の引き受けを得ていたが、未記帳であった。
- (4) 12月分の給料¥90について、かねて立替払いをしていた従業員に対する立替金¥40を差し引いて、残額を現金で支払っていたが、次の処理をしていた。

(借) 給 料 50 (貸) 現 金 50

- (5) かねて商品代金支払いのために振り出していた約束手形¥52が期日になり、当店の当座預金から支払われていたむねの通知を取引銀行から受けた際に、誤って¥25と記帳していた。

資料2 決算整理事項等

- (1) 期末商品棚卸高は、¥ 125 である。
- (2) 受取手形と売掛金の期末残高に対して、3%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- (3) 車両運搬具と備品について、減価償却を行う。なお、減価償却は、これまで適正に行われてきた。
車両運搬具：定率法、償却率 0.25、取得日×4年1月1日
備品：定額法、残存価額 0、耐用年数 4年、取得日×3年1月1日
- (4) 有価証券は、すべて売買目的で保有する株式である。決算日の時価合計額は、¥ 360 である。
- (5) 保険料は、毎年7月1日に1年分を前払いしている。なお、当期の支払い分から保険料の見直しが行われており、見直し前の保険料は1か月あたり¥ 25 であった。
- (6) 消耗品の未使用高は、¥ 8 である。
- (7) 借入金(利率年3%、借入期間は1年)は、すべて×5年10月1日に借り入れたものであり、利息は返済時に全額支払う契約である。なお、利息の計算は月割りとする。
- (8) 納付すべき消費税額¥()を計上する。
- (9) 引出金を整理する。

資料 3

× 5 年 12 月末における精算表

精 算 表

× 5 年 12 月 31 日

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	204						218	
当座預金	380						㊦㊧㊨	
受取手形	220						240	
売掛金	2㊩㊪						260	
貸倒引当金		8						()
有価証券	330						360	
繰越商品	140						125	
従業員立替金	40							
仮払消費税	290							
車両運搬具	800						800	
車両運搬具減価償却累計額		200						㊫㊬㊭
備品	500						500	
備品減価償却累計額		()						()
支払手形		350						()
買掛金		292						292
借入金		400						400
仮受消費税		300						
資本金		940						㊮㊯0
引出金	30							
売上		3,220				3,230		
受取手数料		62				㊰㊱		
仕入	1,570				()			
給料	660				㊲㊳0			
保険料	390				()			
消耗品費	66				㊴㊵			
通信費	50				()			
水道光熱費	63				63			
支払利息	9				()			
	()	()						
ア					()			
貸倒引当金繰入					㊶			
減価償却費					()			
()						㊷㊸		
前払保険料						㊹㊺㊻		
()						()		
イ							()	
未払消費税								㊼㊽
当期純利益					306			306
					()	()	2,984	2,984

(注) 整理記入欄への記入は省略してある。また、太字は赤字記入を意味する。